



豊かな自然環境や
美しい田園地帯。

沖縄本島南部に位置する八重瀬町は、平成18年1月に、東風平町と具志頭村が合併して誕生した町です。町域は、東西に約6.6km、南北に約9.1kmと長方形形状をなし、総面積は26.9km。沖縄県の1.18%を占めています。

大地の大部分が起伏に富んだ地形で、南部一帯は高台に、その他は緩やかな丘陵地帯になっています。全体的に肥沃な土壌に恵まれ、丘陵地帯にはサトウキビ畑が広がるほか、街のいたるところで野菜や果実などの作物が、数多く生産されています。

のどかな田園風景が広がりますが、南部には多々名城や八重瀬岳、破名城の郷ビーチ、具志頭城址やぐしちゃん浜など、深い緑と美しい海辺を有し、その美しい景観が訪れる人の心を癒してくれます。

豊かな自然が残る一方、近年は北部地域を中心に、国道507号線の拡張や伊覇・屋宜原土地画整理事業などの整備を実施。都市的な開発が進み、田園と都市が調和するまちとして日々変貌しています。



ひろがる自然
NATURE

大地や海から広がる自然環境の魅力

美しい海辺と心癒やす緑、のどかな田園など
昔からただずむ風景が残り身近に
自然を感じる八重瀬町の魅力を紹介。

フクギ並木

1613年に具志頭間切の番所が設置されたのちに、番所や隣接する各屋敷の防風、防火林として植栽されたものの一部です。今では全長約150mにわたる並木林が形成され、古いもので推定樹齢100～300年もの木々が見られます。貴重な文化財として町の指定を受けています。



ホロホローの森

具志頭に広がる森に伸びる遊歩道一帯の愛称です。この地域はサンゴ礁由来の石灰岩からできており、北部のやんばるの森とは異なる特有の植物を鑑賞できます。道は地形に合わせて作られているため山あり谷ありますが、歩きやすく整備されています。



世名城のガジュマル

幹回り23.5m、高さ10.3mの巨木で、樹齢は推定で250年といわれています。沖縄県環境保健部自然保護課実施の「昭和63年度巨樹巨木林調査」において沖縄一の巨木に選ばれました。学術的価値も高く、また地域のシンボルとして人々に親しまれています。

坂名城の郷ビーチ

アヒルに似た巨岩があることから「アヒラーブリ」とも呼ばれるビーチ。干潮時には環礁が多く見られ、岩場に住むウニや熱帯魚、サンゴなどを、海に潜ることなく、歩いて鑑賞できます。また世界的にも貴重な海藻類「カサノリ」が群生することでも知られています。

ギーザバンタ

慶座絶壁（ギーザバンタ）は、八重瀬町の南端、平和祈念公園に続く海から垂直にそびえる標高40mの琉球石灰岩の海食崖。地下ダムの余剰水が放水される「慶座の滝」もあり、絶景ポイントとして知られています。その一方で沖縄戦時に、追い詰められた人々がこの崖から身を投げたという悲しい歴史も背負っています。



ハナnder（自然橋）

琉球石灰岩の浸食により生成された天然の橋。橋のある場所は町南部一帯の雨水が合流する川で、その水が浸食することで、大きな太鼓型の天然橋になりました。以前は川に橋を架ける技術がなかったため、この天然橋が交通の要所として地域住民に広く利用されていました。また、国の登録記念物（名勝地関係）に指定されています。



美しい自然、
八重瀬自慢

八重瀬町は、美しい海と心を癒す緑、のどかな田園など、昔から変わらない風景がそこかしこに残り、いつでも自然を身近に感じられるまちです。

南部の海岸線には雄大な海蝕崖が形成され、他の追従を許さない風光明媚な景観を生み出しています。さらに自然が作りあげた肥沃な大地は、目にも鮮やかな農作物を育み、豊潤な恵みを与えてくれます。そしてこのような豊かな自然の中にこそ、私たちの豊かな暮らしが存在し得るのです。

地球温暖化等の環境問題が、世界的に大きく取り上げられる昨今。そのような時代において、貴重な自然を守り続けることは、八重瀬町にとって重要な課題です。

「自然との共生」は、これからのまちづくりの大切なキーワードの一つです。貴重な財産である自然を次世代へ伝え残すために、自然とともにあり続けるために、わたしたちができることは、自然の素晴らしさを改めて見直し、人と自然が調和できるまちづくりの推進に他なりません。